「音楽療法士のメル友のレポートを目にして」へのコメント

HP　記事「音楽療法士のメル友のレポートを目にして」をご覧いただいた方から、次のようなコメントをいただきましたので、ご紹介します。

更にコメントをいただきましたら、随時当ファイルに追加掲載します。

２００８．１．１０．　阿部幸泰

④音楽療法の専門性とは、

１．音楽の技を充分持つ（特に即興）、

２．相手を理解する理論的背景を持つ、

３．音楽療法の方法論（モデル）への知識、

４．倫理・哲学をもつ援助者としてのパーソナリティの適性、

以上４点だと私は思っています。

先生はどのようにお考えでしょうか？

④への私（阿部）の返信

私は音楽療法に関しては、全くの素人ですが、

（音楽的）知識、テクニック（演奏技術）、（当事者への気持ちへの）タッチという三要素が必要と理解しています。

特に、その人の心を読んで即興的に歌や演奏で応じるタッチは、誰にでも出来ることではないと思います。

このことがあなたの云う「４．倫理・哲学をもつ援助者としてのパーソナリティの適性」と通じるのでないかと思います。

また、私が何かの資格取得を目指す学生たちに「資格を取得して、当事者をどうしたいの？」と、問いかけていることとも通じるかと思います。

言い換えれば、専門職である自らが、「当事者と係わり合いながら、生きるとはどういうことかを問い続ける覚悟」ができるかどうかだと思います。

③とても興味深く読ませていただきました。

即興を通して音楽との関係からセラピストとの関係、そして複数の他者との関係の構築を目指すという考え方を初めて知りました。

ここでは「音楽する」ということばが用いられていましたが、このことばの中には「音楽をきく」や「楽器を演奏する」以上の意味がこめられているのかなと思いました。

先日、私がボランティアとしてかかわったサークルでクリスマス会があり、そこで音楽療法が行われました。
私は初めて音楽療法を体験したのですが、そのときの活動は子どもたちに即応した活動というよりも、「こういう音楽を楽しみましょう」という一方的なかかわりに見えました。
このサークルは自閉症のお子さんたちが集まるサークルで、ハンドベルを楽しそうに鳴らしている子もいましたが、中には聴覚過敏があって部屋から出て行くお子さんもいました。
このとき、音楽療法が何のためにあるのかという疑問を感じました。

でも、この方の文章を読んで、子どもたちに寄り添った音楽療法を行っている方もいらっしゃるということを知り、改めて音楽療法について考えさせられました。

③への私（阿部）の返信
どんな専門分野でも同じですが、自分の専門分野の知識、技術を活用して当事者に何をしたいのかの思索・思考がないと、ついつい専門バカになります。
ですから私は、「資格やマニュアルでは人は救えない。資格を取って、当事者（子ども）をどうしたいのか？」と、授業でも問い続けています。
専門職の資格はその分野への運転免許のような一つの手段に過ぎませんよね。
その手段を使って、当事者（子ども）をどうしたいのかという目的の思考・思索が乏しいプロが多いですよね。
また、資格を取ると目的を達したかのように錯覚し、自らの力量を検証し続けない、つまり向上心のないプロも多いですよね。

あなたがボランティアで接した音楽療法をされていた人は、そこの目的への思索が乏しく、自らの専門性に酔っているだけなのでしょうね。

迷惑なのは、当事者（子ども）の方々ですよね。

音楽療法に限らず、〇〇療法と言われるものに、少なからず危惧を抱いています。
一番危惧するのは、〇〇療法に当事者を引っ張り込む姿勢が見えることです。
〇〇療法が先にあるのでなく、当事者の障害状況に合わせて、自らの〇〇療法を応用・活用・工夫する力がどれだけあるのかなあと思っています。
プロには、「資格云々からの専門的理屈はさておき、まず、どう当事者と係わり合うかを事例で見せてください。」と話します。

そうした観点からも、このメル友のレポートは私のイメージしている音楽療法というものを、しっかりと実践していると思います。
当事者との係わり合いの中で、自らの知識、技術を工夫・応用する力量のあるプロは、そうは居ませんよね。

ついでながら、私は、何の資格も持っていません。
障害児・者は社会的資格には程遠い生身の存在だけに、こちらも生身である方が係わり合い易い利点があります。
資格という袴なく、生身の人間同士のコミュニケーションが可能ですものね。
そこのところのコミュニケーション論が私のライフワークと思っています。

②私も〇〇クラブで音楽療法セッションを行っていて、大学の恩師から〇〇先生（注：レポートの著者）の素晴らしさは聞かされていました。
いつか会いに行くようにと言われておりましたが、なかなか機会も無くて。
そのような状況でしたので、阿部先生からの情報、とても嬉しく感謝いたします。
ありがとうございました。

①実践レポート、ありがとうございます。
子どもさんの理解へと接近する方略は人それぞれ違っても、人と人との係わり合い、やりとりということに他なりませんからね。
首肯しつつ読ませていただきました。